



長野県No.1 のもも・ネクタリン産地を守ろう！

◆生育状況と当面する重点作業について

1. 生育は、昨年より3～4日程度遅い。玉肥大は平年並みとなっている。
2. 干天が7～10日程度続いたら、樹冠下に集中し、20～30mm程度のかん水を行なう。
なお、高温が続く場合は、5～7日間隔で行う。
また、降雨が多い場合は、排水対策を行う。
3. 気温高く・日差し強くなる時期となってきたため、樹体保護のため、日焼け防止対策を行う。
4. 収穫前管理・早生品種の適期収穫に努める。
5. 高温乾燥傾向の場合はハダニ類が増加する。発生が増加してからでは対策が取れない。発生状況をこまめに確認する。
6. 配布されている「葉面散布肥料・特殊資材の使い方」を参考に葉面散布肥料を有効に活用する。総合的な品質向上対策として、アミノ酸等のケルパック66、友果、オルガミン等を利用する。
7. もも・ネクタリン栽培日誌を提出されていない方は、直接流通センター・共選所へご提出下さい。

【もも薬剤防除】

◆第9回薬剤散布について

1. 散布時期:7月5日(土)～9日(水) 《実際散布日記入 月 日》
2. 調 合 量:水100ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展 着 剤	10ml	—	—
モベントフロアブル	50ml	ハダニ類・アブラムシ類・カイガラムシ類	7日
ナリアWDG	50g	灰星病・ホモプシス腐敗病	前日
(㊟ダイアジノン水和剤34)	100g	シンクイムシ類・カイガラムシ類	前日

【ネクタリン薬剤防除】※もも・ネクタリン混植園

◆第9回薬剤散布について

1. 散布時期:7月5日(土)～9日(水) 《実際散布日記入 月 日》
2. 調 合 量:水100ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展 着 剤	10ml	—	—
モベントフロアブル	50ml	ハダニ類・アブラムシ類・カイガラムシ類	7日
ナリアWDG	50g	灰星病・ホモプシス腐敗病	前日
(㊟ダイアジノン水和剤34)	100g	シンクイムシ類・カイガラムシ類	21日

【第9回薬剤散布共通留意事項】

3. 散 布 量:10a当り ⇒ 500ℓ 以上
4. 留意事項
 - ①収穫中・直前等の品種(たまき・なつき・アームキング～水野ネクタリン等)に飛散しないよう注意する。
 - ②「収穫前日」となっている農薬の使用時期は、収穫24時間前までに散布が終わる事を意味する。
 - ③ホモプシス腐敗病の心配が少ない園は、ナリアWDGに代えてフリントフロアブル25 2,000倍(水100ℓ 当り 50ml)を使用してもよい。
 - ④シンクイムシ類・モモノゴマダラメイガの発生園、無袋栽培で害虫の発生が心配される園は、㊟ダイ

アジノン水和剤 1,000 倍を加用散布する。なお、ネクタリンは収穫前規制が21日前までなので、特にフレーバートップ等は注意する。

◆除袋目安と管理について

1. 生育状況に十分考慮しながら、(高温干ばつで生育は遅れ、曇天多雨で生育は進む)別記の日程を目安に地色の抜け具合を観察し適期に除袋作業を進める。

2. 除袋時の注意

①除袋が早すぎると、無袋のようになり、着色が遅れ、遅すぎると着色せず、軟化が早くなるので、注意する。一般的な桃は、下記の図1を参考にし白っぽく淡い緑色になる頃が目安です。果実全体の地色が抜けた状態ではやや遅い。

②大玉から除袋を開始し、小玉や下枝・樹冠内部のものは上枝の除袋4～5日後に数回に分けて行う。最低でも上枝と下枝では生育差があるので2回程度に分けて除袋する。

③もも二重袋を使用したものは、3～4日程度早めに外袋のみ除袋する。

④除袋時に、曇雨天が続くような場合は、除袋時期の目安より、2日程度早めに始める。

⑤老木や樹勢の弱い樹は、数日早く除袋する。樹勢の強い樹は、除袋を遅らせる。

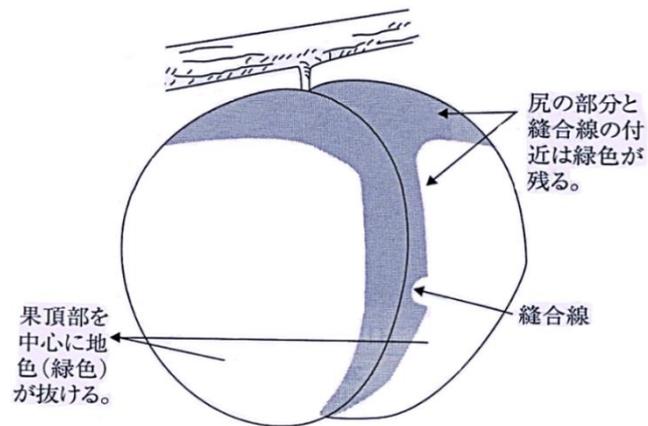


図1 果実の除袋目安

3. 着色管理

①葉摘みは、着色ムラをなくすため果実に密着している葉を摘む。1果当たり5枚程度限度とする。摘み過ぎないように注意する。摘み過ぎは、着色・糖度に悪影響が出やすい。また肌荒れ・日焼け・軟化等、品質低下になる場合がある。※もも二重袋を使用した場合は、葉摘みはしない。

②反射シートは、有袋品種で、除袋直後から使用する。無袋品種で収穫予定日の10～14日前位から使用する。概ね着色したら又は、収穫開始2日前薬剤散布前にシートを外す。

③支柱立て、誘引を行い樹内部に日の光が入るようにする。

④着色先行となり、早採りを助長するので、熟度をよくみて判断し収穫する。

4. 一重袋での除袋時期の目安 (あくまで目安です。今後の気象条件・自園の状況に合わせる)

品 種	時 期	目安の指標
白鳳	7月上旬頃	<u>収穫7～10日前頃</u>
あかつき	7月上中旬頃	<u>収穫7～10日前頃</u>

※目安の指標:着色が容易な品種ほど除袋は遅めに。着色が困難な品種ほど早めとしてください。

◆もも・ネクタリン収穫前薬剤散布について

収穫前の重要な病害虫防除になる。特に降雨が多い場合は、影響が大きい。必ず実施し、対策を行う。

【除袋後・無袋着色始め】 ※必ず実施する。

1. 散布時期:有袋除袋後又は、無袋着色始め(収穫7~10日前頃)《実際散布日記入 月 日》
2. 調 合 量:100ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
ア プ ロ ー チ B I	1 0 0 mℓ	機能性展着剤	—
スクレアフロアブル	3 3 mℓ	灰星病・ホモプシス腐敗病	前日
アーデントフロアブル	5 0 mℓ	モモハモグリガ・ミカンキイロザミウマ・シクイムシ類・ハマキムシ類	前日

【収穫開始2日前防除】 ※必ず実施する。

1. 散布時期:収穫開始2日前 《実際散布日記入 月 日》
2. 調 合 量:100ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
ア プ ロ ー チ B I	1 0 0 mℓ	機能性展着剤	—
オンリーワンフロアブル	5 0 mℓ	灰星病・ホモプシス腐敗病	前日
エ ク シ レ ル S E	2 0 mℓ	ミカンキイロザミウマ・シクイムシ類・ハマキムシ類	前日

【共通留意事項】

3. 散 布 量:10a当り ⇒ 500ℓ 以上
4. 留意事項
 - ①「収穫前日」となっている農薬の使用時期は、収穫する24時間前までに散布が終わる事を意味する。
 - ②果柄部へも丁寧に薬剤散布を行う。
 - ③除袋直後(ほとんど果面に日照を受けない状態)は、薬害(褐色の流れサビ斑・縞状の着色不良)が出やすいので少なくとも1~2日程度は日照をあてて散布する。
 - ④腐敗果を発見したら被害を拡大させないために、園外に持ち出すか除去し土中に埋める。
 - ⑤スクレアフロアブルも代えて、ミギワ20フロアブル 4,000 倍(水 100ℓ 当り 25mℓ・収穫前日まで)を使用してもよい。
 - ⑥オンリーワンフロアブルに代えて、オーシャインフロアブル 2,000 倍(水 100ℓ 当り 50 mℓ・収穫前日まで)を使用してもよい。
 - ⑦エクシレルSEに代えて、サムコルフロアブル10の 5,000 倍(水 100ℓ 当り 20g・収穫前日まで)又はディアナ WDG5,000 倍(水 100ℓ 当り 20g・収穫前日まで)を加用散布する。

◆過繁茂の樹体・新梢管理について

1. まずは支柱立て・枝吊り・誘引で空間を作る。
2. 果実が2~3個成っていても、邪魔な立ち枝は切除する。
3. 大きな副梢がある強い新梢を切る。(徒長枝は早めに切っておく)

◆せん孔細菌病の対策を実施しよう！！

①夏型枝病斑の剪除をする。

枝の病斑で、アメが出ていなくても病斑の場合があるので見落とさないように注意する。

②春型枝病斑も引き続き剪除する。



夏型枝病斑



葉での発病

上記の写真の○印部分が、被害例です。